

「IGCJを考える会」報告

2014/11/20 IGCJ4

「IGCJを考える会」

- IGCJ3で呼び掛け
 - 「JPNICさん大変だけど事務局頑張ってください」という話があったけど、それは違うのではないか。実働はJPNICで仕方無いとしても、我々がIGCJなのだから、アジェンダセッティングとか、誰を呼んだ方が良いとか、主体的に取り組むべき。小さなチームを作ってみて、試行錯誤してみてはどうか」（堀田さん、ミーティングレポートから引用）
- メンバー（五十音順）
 - 木下 剛 (IAJapan, シスコシステムズ)
 - 橘 俊男 (ISOC-JP, GREE)
 - 堀田 博文 (JPRS)
 - 山口 修治 (総務省)

「考える会」会合

- 2014年11月6日(木) 於 JPNIC会議室
- IGCJ3の議論を振り返り、運営方針を討議する

1 : IGCJ3全体の印象

- いろいろな方から活発な意見
- それぞれ良く考えられ、意見の内容は充実
- 相反する意見は多くないが、方向性はさまざま

2: 複数のターゲットに向けた活動が必要 (1/2)

- IGCJ3での意見:
 - 「プロ(関連団体役員など)向け」と「一般向け」を分けてそれぞれに対応する必要あり
- 参加者層は3つに大別できそう
 - プロ: 関連団体役員などで、国際会議に参画する
 - コーカス(caucus): 責任を持った発言を行い、議論に参加
 - オーディエンス(audience): IG諸課題や会合のトピックに関心を持ち、発表や議論を聞きに来る

2: 複数のターゲットに向けた活動が必要 (2/2)

- プロ、コーカス、オーディエンス、どのセグメントにも働きかけできるのが望ましい
- オーディエンス向けにシンポジウム形式で開催など
- プロとコーカスの議論の場では、参加者や発言者のリストの公開などで、責任を持った発言と、議論したメンバーの明確化を行うべき。透明性の観点からも重要。
- プロに関して、相互の連携の場を持つことは有用

3: 趣意書

- IGCJ3での意見:
 - ミッションや長期的な目標を明確にするべき
- 趣意書、チャーターなどの明確化が必要

4: コアとなるテーマ

- IGCJ3での意見：
 - IANA監督権限移管、基盤技術の調整、IGF、マルチステークホルダー体制など、基盤運営やIG自体の話題は、継続して取り組む必要がある。
- これらコアとなるテーマは継続して取り扱う

今後の予定

- 継続して運営方針の検討
- IGCJ5の計画
 - 2015年1月の予定